

## 各地の話題 大崎市



2020年11月20日号掲載

### 令和元年東日本台風から1年 ～被災から飛躍へ～



大崎市鹿島台志田谷地区は、昨年の台風19号により付近の河川堤防が決壊。約10日間浸水し、糖度が高い「デリシャストマト」や水稻などを生産する(有)マルセンファームも2m以上浸水、事務所やハウスを含む全ての施設や機械、農産物に甚大な被害が発生した。

同法人は主に地区内の農地を集積，受託を含め水稻約38ha，ハウスでトマト1.5ha，菊1ha，ホウレンソウ40aなどを生産。被災直後から，従業員や外国人実習生，生産団体の協力により，全滅した農産物や，流入した稲わら，泥などの除去を行った。

今年1月，修繕が完了したハウスから栽培を再開。「デリシャストマト」や菊などを順次出荷，今秋には乾燥機も入れ替え，新米も出荷できた。

今月大型ハウスの再建が終わると主な復旧が完了。同ハウスでは，ホウレンソウの植え付けを予定している。

代表の千葉卓也さん(47)は，「復旧できたのは多くのお客様からの激励と生産者仲間の援助，国や県・市，生産団体などからの支援によるもの」と語る。地域の中心経営体である同法人の今後の飛躍が期待される。



【記事提供：大崎市農業委員会】